

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成20年9月26日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4570500233		
法人名	社会福祉法人ときわ会		
事業所名	グループホームひなもり		
所在地	宮崎県小林市大字堤4380番地 (電話) 0984-23-8360		
評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎県宮崎市原町2番22号		
訪問調査日	平成20年8月20日	評価確定日	平成20年9月26日

## 【情報提供票より】 (平成20年7月25日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成15年4月1日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	39 人	常勤9人, 非常勤30人, 常勤換算6.2人	

### (2) 建物概要

建物構造	鉄筋 造り	
	1階建ての	1階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	28,000 円	その他の経費(月額)	実費 円
敷金	有( 円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,100 円		

### (4) 利用者の概要(平成20年7月23日現在)

利用者人数	26名	男性 4名	女性 22名
要介護1	2	要介護2	6
要介護3	9	要介護4	4
要介護5	4	要支援2	1
年齢	平均 88歳	最低 79歳	最高 97歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	池井病院、ひろた内科
---------	------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

市街地から離れた高台に霧島連山を眺め、同敷地には介護老人福祉施設や生活支援ハウスなどがある。近くに公衆温泉施設も建設中で公共の場ができる楽しみも期待される。ホームは木造で、玄関から入ると造花の百合の装飾やかわいい折り紙細工が優しさを感じる。居室では自宅を思わせるように一人ひとりに合わせてベッドや畳で寝られるようになっている。また、電話やテレビ、お茶等が自由に使用できて、居室が団らんの場になっている。廊下の畳の間も団らんに利用され、話し声や笑い声が聞こえ、生き生きと共同生活ができるように職員が支援しているホームである。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	運営推進会議は外部委員全員の出席で開催しており、内部欠席者には文書で回覧している。食事は、昼食時のみ職員の一人が、同じ食事をとりながら介助している。看護師を1名配置した。また、夜勤は3ユニットに2人とし細やかな引き継ぎを行うようにしている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は職員全員で話し合っており、日ごろのケアを振り返り、前回の評価改善点にも全員で取り組んでいる。また、職員は外部評価の意義についても理解できている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議には市職員、地域包括支援センター、地域住民代表、家族代表が出席し、2か月に1回開催されている。運営面の意見交換や行政からのグループホームの状況報告などがあり、今のままでのケアの続行と出された意見を参考に今後のケアの向上に生かすように取り組んでいる。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	職員が苦情などの気づきについて家族来訪時に聞くようにしている。家族からあげられた苦情等には、即対応している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	ホームを地域の中の家として考え、施設との合同運動会や、施設訪問のボランティアの踊りなどを見に出かけることはあるが、ホーム単独の外出ではない。災害時の地域住民の協力や利用者を見かけた時の連絡をもらうなどホームの理解は得られているので、利用者が地域の一員として地域交流に参加し、地元の人々と交流することを区長を通じ老人会等に働きかけたいとの意向である。

## 2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念の共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自の理念を分かりやすく見やすいところに明示してある。	○	家庭的な環境と地域住民との交流の下で、その人らしく暮らし続けるような理念への見直しを期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は、毎朝のミーティングの際に唱和し、言葉づかいや対応に気をつけるようにしている。理念は職員に深く浸透し実践している。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	併設の施設の行事に参加することで、地域の人との交流が行われている。	○	利用者が地域の一員として地域交流に参加し、地元の人々と交流することなど、区長や老人会等に働きかけたいという今後の意向を期待したい。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は職員全員で話し合っ、日ごろのケアを振り返り、前回の評価改善点にも全員で取り組んでいる。また、職員は外部評価の意義についても理解できている。		

宮崎県小林市 グループホームひなもり

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2か月に1回開催され、市の職員、地域包括支援センター、地域住民代表、民生委員などの出席で、意見交換などを行い、有意義な会議となっている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者は市の担当者や関係機関との連絡調整を図り、また、市職員やケアマネジャー等と定期的な会合に出席し意見交換をしている。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	暮らしぶりや健康状態は家族来訪時に報告し、遠方の家族には電話で報告している。預かり金については、毎月決算報告書を2部作成し1部は家族に、一部はサインを頂き保管している。また、ヒヤリハットや事故等についての報告もその都度なされている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の意見、不満、苦情は苦情相談受付簿により処理され、協議やその対策も記載されており、全職員が確認印を押している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者がなじみの関係を続けられるように職員の異動には時間をかけコミュニケーションをとるようにしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	併設の施設内研修とホームの研修を毎月行い、研修記録や外部研修は復命書や職員会議で報告をしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会のブロック別研修に参加し、情報交換などしている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族と本人が見学に訪れ説明したり、日中のみの利用などを試みたりしている。また、入居に際し、日ごろ使用していた道具や家具などを持ち込み、落ち着いた生活ができるように支援している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者一人ひとりに合わせ決して強制をしないように寄り添い、時には利用者が困っている部屋で職員も誘われお茶を飲み話を聞いたり、調理の味付けをしてもらったり共に支え合う関係が見られた。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は利用者一人ひとりの趣味、食事状況など日常生活動向を把握しており、電話を居室で使用したい方の意向にも沿いながら、その人の可能性を見いだすように努めている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	各ユニットごとに職員が気づきや意見を出し合い、本人や家族の希望を取り入れ月1回の会議で話し合っ介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間に応じた見直しが行われていないが、モニタリングは毎月行われている。	○	介護計画の見直しは状態変化が生じた時と変化が無くとも3か月ごとに見直すことが望ましい。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の状況に応じて受診の支援や近隣の高齢者等がショートステイや緊急時に宿泊できる体制はできている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	以前から利用している病院をかかりつけ医として受診し、緊急時など気軽に電話相談ができ、必要に応じて受診できる体制がある。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期については家族と話し合い、状態変化時には家族やかかりつけ医と連絡を取り合うことなどについて、全職員でその方針の共有をしている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの性格に応じた言葉かけや対応に十分気をつけている様子が見受けられ、個人情報の取り扱いにも心配りを十分にしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お茶の好きな人、キーボードやパッチワークの好きな人、できるだけ一人ひとりのペースに合わせた過ごし方を支援するようにしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の下ごしらえや味付け、後片づけ等を利用者と職員が一緒にしている。昼食時は、職員一人が利用者と同じ食事をしながら、また、他の職員は食事介助に専念し、完食されると他の利用者も一緒に喜んでる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人の希望と状態を考慮し、いつでも入浴できるように支援している。また、併設施設の温泉浴も時にはできるようにしている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物たたみ、掃除などの日常的な事はもとより歌やキーボード、パッチワークと一人ひとりの生活歴を考慮し寄り添ったケアを心がけている様子がみられた。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	本人、家族の希望で一時帰宅やお墓参りを支援している。敷地内から道路沿いの桜並木を眺めながらお茶を楽しんだり、温泉や散歩に出かけている。	○	時には、季節を感じるための外出を行事計画の中で実施し、近隣の名勝地などに出かけたりすることを期待したい。
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵は掛けていない。利用者が外に行かれるときは同行しているが、気づかないで一人で出られた時は近所の人や併設施設からの連絡など、協力も得られている。		

宮崎県小林市 グループホームひなもり

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	同法人の介護老人福祉施設との連携と職員間の連絡網ができており、定期的な避難訓練を行い、地域防災協力会を組織し、協力を得られる体制がある。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設の介護老人福祉施設の管理栄養士がバランスの良い献立表を作成しており、一人ひとり食事摂取状況に応じて刻みなどの食事形態も工夫されている。水分摂取と共に介助するなど支援している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	和風建築で、居室の廊下側に出窓風に障子の窓があるので、家中風が吹き抜けて心地よく、窓のないところは天窓からのひざしで明るく、食堂も広く明るい。続きの畳の間は、一段高く、コタツが置かれ、団らんの場になっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の廊下側に出窓風の障子窓があるので、相対する部屋の人と窓に座りおしゃべりもできる。使い慣れた家具、テレビ、電話、仏壇などが持ち込まれ、落ち着いて居心地よく生活できるように工夫している。		

※  は、重点項目。